



平成29年5月31日

とべだより

6月号

横浜市立戸部小学校
校長 柳澤 潤

「笑顔の輪を広げる」

学校長 柳澤 潤



学校の観察池は、オタマジャクシでいっぱいです。毎朝登校してくると、決まって、子どもたちは観察池を覗き込みます。すくっては放し、すくっては放し、しばらくの間、オタマジャクシと過ごします。足が出てくるとなお一層大胆に、かかわろうとします。相手が1センチ程と小さくても、命あるものに触れる子どもの目は、とてもきらきらとしています。一方、東門の壁沿いに一斉に咲いたバラを見て、「うわあ、きれい」と、植物に関心を向ける子もいます。大人が見逃している日常の変化を、子どもは素直に感じて声を上げることができます。

私は、子どもと一緒に覗き込んだり、声を上げたりするようにしています。すると、自然と気持ちが高ぶり、笑顔になるから不思議です。朝の登校時間のちょっとした会話は、とても楽しい時間になっています。

さて、本校では、5月19日に「第1回 えがお会議」を行いました。ねらいは、「学校のいじめを防ぎ、笑顔がたくさん増やすためにできることを考えよう」です。1年生以上の全クラスから、2名ずつ代表が参加しました。各クラスでは、事前に「①いじめを絶対に防ぐために、しないようにしたいこと ②笑顔を増やすために積極的にしたいこと」について、話し合ってきています。学年ごとの話し合いでは、「いじめ」は、どんなことだと思うかについて、今までに経験したことを振り返りながら、先生方も参加して考えを深めていきました。そのあと、他学年の話し合いのメモを見ながら、考えの交流をしました。

参加した子どもたちは、どの子も一生懸命に、友達のことをよく考えて発言していました。「いじめ」と向き合うためには、「きちんと立ち止まって考える」ことが大切です。「えがお会議」は、子どもにとっても、一緒に参加した大人にとっても、立ち止まって考える貴重な時間でした。体が痛い、心が痛いと感じさせることは、いじめになること。笑顔を増やすことは、いじめを防ぐことにつながるということがわかりました。今後は、各クラスが「えがお目標」を決め、一人ひとりが「えがお宣言」を決めて取り組んでいきます。

それぞれの家庭では、「人に迷惑をかけない」「自分が嫌だと思ふことは、人にもしない」など、繰り返して子どもに言い聞かせている大事な言葉があると思います。大人の厳しい姿勢は、引き続き示していかなければなりません。あわせて、子どもと話し合ってみる、一緒に考えてみることは、家庭でも大切なことです。学校・家庭・地域が協力して、「いじめ」と向き合う必要があります。

いじめを防ぐために、笑顔を増やすことに視点を置く・・・とても素敵なことです。フランスの哲学者アランは、幸福論の中で、「幸福だから笑うのではない、笑うから幸福なのだ」という言葉を残しています。笑顔の発信は、まず自分から、家庭から、この地域からです。子どもと笑顔の会話、笑顔のかかわりを増やしていきましょう。

学校は、上郷の後、子浦、日光と宿泊学習が続きます。

保護者・地域の皆様、今月もどうぞよろしく申し上げます。

